

松本朗教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会会長 高屋 和子

松本朗教授は、2024年3月をもって定年により立命館大学教授の職を退かれます。松本朗先生は、國學院大學大学院経済学研究科博士後期課程を単位取得満期退学後、愛媛大学法文学部に講師として赴任され、その後助教授に昇任された後、カリフォルニア大学での在外研究を経て、2001年には教授に昇任されるなど、着実に教育研究に従事されてこられました。立命館大学には2005年4月に着任され、学部・大学院での教育指導に熱心に取り組まれてきました。学部においてはコア科目である社会経済学初級 $\alpha \cdot \beta$ 、及びご専門である貨幣信用論など熱心に学部生教育に取り組まれ、また、研究科では日本語基準、および英語基準であるMPEDコースにおいても丁寧に研究指導にあたられ、多くの修了生を輩出されました。

学内役職としては、2010年度に経済学部学生主事、2011年度に教学担当副学部長、2012年度には企画担当副学部長、そして2015年2月からは副総長になられた松原豊彦先生の残り任期引き継いで経済学部長になられ、その後続いて2015年4月からの3年間も学部長を務められました。学部長を終えられた後も2018年度から3年間経済学研究科長を務められ、学部執行部を担われた期間は合計で9年超に及び、その間学部教学と運営をリードして来られました。

また、松本先生と言えば、教職員組合でのご活躍にも触れねばなりません。ここでは、詳しく述べませんが、2度のベアを達成された剛腕! ぶりは皆様も良くご存じかと思います。

加えて、BKCのご近所にお住いのこともあり、時々我々同僚や職員の皆さんを招いて、お得意の料理をふるまってくくださったことは、良い思い出として思い出される方も多いのではないのでしょうか。

松本先生のご研究については、私ではそのご紹介の任が果たしきれませんが、以下いくつかの領域でご研究を展開されてきました。まず、第1に、国際通貨論、外国為替論、中央銀行論に対する、貨幣信用論によるアプローチが挙げられるでしょう。そして、第2に、現在の物価問題、インフレ・デフレ問題、バブルの問題、さらにマネー・サプライに関わる論争に対しての、貨幣信用論からのアプローチ、及びその議論からの政策提言です。これらの研究で得られた知見を応用し、1990年代の円高における地域経済問題の分析にもあたられました。また、国際学会でのご報告はじめ、国際交流にも積極的にかかわられ、その研究ネットワークを学部・研究科教育、及び研究プロジェクトでも惜しみなく活用、提供くださいました。私も関わる中国経済研究プロジェクトでは、先生の研究ネットワークのおかげでイギリスが加わり、中国・韓国・イギリス・ハンガリー・日本、5か国にまたがる研究を展開することができています。

松本先生は2024年4月以降も特任教授として、本学の教育・研究を引き続き支えていただきま

す。研究・教育への情熱は益々盛んであられると拝見しておりますが、ご健康にはくれぐれも留意いただき、今後とも後進へのご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。そして、時々お得意のお料理のご相伴にあずかれることを楽しみにしております。2005年着任の「同期の桜」として、学部を代表する学部長として、最後に先生のご健勝と一層のご活躍を祈念し、本記念号刊行にあたってのご挨拶とさせていただきます。